

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年8月7日
タイトル	蓮池幹線用水路で自然体験と水質実験！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年7月15日（土）福山市立西深津小学校で「蓮池川自然体験」と環境学習が開催されましたので、蓮池川自然体験の様子を取材しました。

福山市立西深津小学校のある西深津学区では、西深津学区まちづくり推進委員会が主催で毎月「子ども土曜クラブ」を実施しておられ、子ども達が学区内にある蔵王山や校舎の目の前を流れている蓮池川（蓮池幹線用水路）という故郷の自然とふれあうことや地域住民と交流することで、自然や地域に興味を持つよう、取り組みをしておられます。

「蓮池川自然体験」として、蓮池川（蓮池幹線用水路）へ船を浮かべて子ども達が船上体験をし、環境学習などの福山市環境啓発課から芦田川の水質について学習し水質実験をしました。

朝8時より蓮池川の船上体験が始まりました。船には、町内会の方が船頭として乗船され、子ども5、6人と保護者が一緒に乗りました。子ども達は初めて船に乗ってオールを漕いだり、川面から見える景色を楽しみました。水位は大人の腰のあたりで、長いオールで川底を突くことができ、子どもが突いて「わあ、底が固い！」と喜んでいました。橋の下を潜る時は、頭を低くして通過しました。橋の裏側を間近で見る貴重な体験でした。

船に乗ることで水面が近くなり水辺の生き物や水草に小さな花が咲いていることなど、普段では見られない物を見ることができました。船上体験を5回行い約50人の子どもと保護者が参加されました。



船を漕ぎながら蓮池川は福山城築城のころ造られ約400年の歴史があることやクマゼミは主に西日本に棲息し柑橘類の樹木を好むことなど子ども達に体験の中で話しておられました。

「楽しかった。オールを漕ぐのが難しかった。水が濁っていて汚かった。水草が多かった。トンボがいた。」と元気に答えてくれました。



あいにく水が濁っており、水中の生き物はみつけにくかったですが、蜂、セミ、トンボなどの昆虫や最近みかけるようになったという鶺鴒を見ることができました。

10時から、西深津小学校の理科教室で環境学習をしました。

まず校長先生から「今日は朝から、町内会の皆様のご協力により船上体験をすることができました。とても楽しくていい思い出になりました。しかし、先日の大雨でこの蓮池川も水位がみるみる上昇し、危険がはらんでいることを実感しました。」と話されました。

つぎに水土里ネット福山市より蓮池川が実は人工的に造られた農業用水であること、校長先生の挨拶のとおり危険が伴うので転落防止を呼掛け「七社頭首工用水」と「転落防止」の資料と福山市上下水道局の「福山の水」を配布しました。

続いて、福山市の環境啓発課から世界に水事情や芦田川の水について出前授業をされました。地球の7割が海で水の惑星と言われていますが、人間が使える水は1リットルのペットボトルに換算するとキャップ1杯しかなく、日本では1日1人が300リットルの水を使っているのに、世界では1日25リットルしか使えない地域があることや牛乳や食料油を捨てたらお風呂何杯の水で薄めなければ魚が生息できないか話されました。



その後、水質検査（パックテスト）をしました。パックテストは、水道水に炭酸ジュースをとかしたものと水道水、蓮池川の水が用意されました。

子ども達は、炭酸ジュースが入った水を「あー飲みたい!」と言って「これは汚くないじゃろう。」と、蓮池川の水は船上体験でも「濁っていて汚い。」と言っていました。実験結果は炭酸ジュースが魚の生息できないレベルの「よごれている」となり、水道水と蓮池川の水は同じレベルの「きれい」という結果になりました。

一見きたなく見える蓮池川の水の方がきれいだということがわかり、この結果に子ども達はびっくりしていました。人がおいしい物や栄養がある物だからといって環境にやさしいとは限らないので、ゴミを捨てないこと、ジュースや食料油など残して捨てると水質が悪化し、きれいにするのに大量の水が必要となるので捨てないよう工夫する必要があることが分かりました。みんながルールを守ることが大切なことだと話されました。



この度の取材から農業用水の管理に関わる水土里ネットとして、水質保全を含めたかんがい用水の安定確保に向けて地域住民との共生を図ってまいりたいと考えており、子ども達をはじめ、地域住民の方にも広く農業用水の役割や施設の管理の重要性を理解していただくよう、21世紀土地改良区創造運動に取り組んでいきたいと思っております。